



# 藤本 みのる 通信

Vol 359

2020年9月15日発行

大月市議会議員



自宅 大月市猿橋町小篠 8 5 3

電話/FAX 0 5 5 4 - 5 6 - 7 2 7 2

## 大月市が移住者増へ研究会発足

小林市長が、9月定例会所信で、移住者の増加につなげていけるよう研究会を発足させたと次のように述べました。

「6月16日に山梨県と研究会を発足し、首都圏と山梨県・大月市におけるテレワークなどの二拠点での居住の推進について研究を始めることとしました。また独自に、ワーケーションについて研究を始めることとしました。各部から選出された職員6名を中心に、テレワークやサテライトオフィス等の拠点整備、閉校した学校などの公共施設の活用、などの課題に横断的に検討することとしています。また外部人材をアドバイザーとして任命することで研究を進めたいと考えています。新しい働き方、暮らし方のニーズに応え、関係人口や移住者の増加につなげていけるよう進めていきます」

新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに、「地方回帰」の流れが生まれています。大月市に住み続けられる安定した雇用の確保と合わせ、二拠点居住、地方移住のU・I・Jターン支援拡充の視点は重要です。

UTY テレビ山梨 2020/06/16 より

感染症との共生を見据えて、山梨と都市部の2か所に拠点を持つ新たなライフスタイルを推進しようと、山梨県が大月市をモデルケースにした初めての研究会を立ち上げました。

6月16日行われた研究会の初会合には、長崎知事と大月市の小林信保市長、それに民間企業の担当者などが参加しました。

会議では感染症との共生を見据えて、山梨で暮らしながら都市部の企業にテレワークで勤務する新たなライフスタイル、デュアルベースタウンの推進について意見を交わしました。

この中で大月市は、JR中央線など首都圏へのアクセスが良好な一方で人口流出が著しいことから閉校した学校の跡地などを企業のサテライトオフィスなどとして活用し、人の呼び込みを図りたい考えを示しました。

## 【藤本みのる活動日誌】

9月10日(木) 総務産業常任委員会傍聴、市議会広報委員会

9月11日(金) 社会文教常任委員会

9月13日(日) 稲刈り(自家用田んぼ)、貯水池等一斉草刈り